

授業事例3 酔い止め薬を正しく使おう

【所要時間】 約20分

【実施時期】 遠足・宿泊学習前

【授業の概要】 遠足や宿泊学習に持参する酔い止め薬の使い方を学ぶ授業

【授業の特徴】 児童が自ら薬の説明書を見て必要な情報を読み取る体験型授業

児童に伝えること

- 薬を服用する上での基本的なルールを教える。
- 薬の服用後は副作用が発現する可能性があることを伝える。
- 市販薬を正しく服用するために説明書を読む必要があることを伝えるとともに、用法用量や副作用の情報を、説明書からどのように読み取ればいいのかを教える。

この授業のねらい

- 薬を服用する上での基本的なルールについて学び、説明書を読みながら用法用量等を守って正しく薬を服用してもらう。
- 薬の服用後に違和感があったら、すぐに周りの大人に相談できるようになる。

	授業内容とポイント
導入	※この事例では「のりものるんジュニア」の説明書を使用しますので、児童に配布してください。 1 薬を服用する際は、説明書を読まなければならないことを学ぶ。 ○市販薬の箱や、中に入っている説明書（添付文書）を読んだことがあるか確認する。 ○説明書には薬を飲むときのルール等、必要な情報が書いてあることを説明する。
展開	2 薬の説明書から必要な情報を読み取る。 ○薬には飲む時間（用法）と飲む量（用量）というルールがあることを説明する。 ○薬の説明書から用法用量を読み取ってもらう。 ○薬の服用後は副作用に注意することを説明する。 ・期待していない好ましくない作用を「副作用」ということ。 ・副作用には、命に関わる重篤なもの（アレルギー等）と、成分の特性上ある程度発現が予測される副作用があること。 ○副作用にはどのようなものがあるのかを学ぶとともに、薬の服用後に違和感があったら大人に相談するよう説明する。

まとめ

3 授業内容のおさらいをする。

- ・ 薬の服用前に説明書を読むこと。
- ・ 薬は用法用量を守って正しく使うこと。
- ・ 薬の服用後、違和感があったら大人に相談すること。